

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	教科教育法（図画工作）						授業形態		講義	
科目コード	750096	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	吉田 健								ICT活 用	○
授業概要	本授業では、図画工作科の目標や内容構成を踏まえながら、児童の造形的な能力の発達に即した実践的な指導力を身につけていくことをねらいとする。制作実践から図画工作科で使用する基本的な材料・用具の扱いの習熟をはかるとともに、年齢ごとの子どもの作品の鑑賞を通して、児童作品の見方や考え方を学修する。また教師個人の好みや、美的感覚を強制するような指導観・教材観ではなく、子ども一人ひとりの表現の違いを認め、豊かになで創作活動が展開できる指導法を考える。小学校の現場では指導が多くなると、指示待ちの児童が増える傾向がある。指導が援助であることと、児童に考えさせることが創造的な展開になることを踏まえ、子どもの視座で共有する力を身に着ける学修を目指す。 第1回 オリエンテーション、授業者紹介、自己紹介、図画工作の概要 ・コミュニケーションを大切に、相互理解に努める。 第2回 図画工作科における学び									
関連する科目	保育内容指導法（造形表現） 図画工作 図画工作演習 子どもと手作り遊び									
授業の進め方 と方法	・学習指導要領図画工作編を用いて、図画工作科の目標と内容を学修する。 ・子どもの表現における発達段階を解説し、理解につなげる。実際の作品を検討し、グループでの協議を進める。意見交換を行う。 ・図工の基礎的な制作実習を通して、表現する、作る楽しさを体感・体験する。個人制作からグループによる共同制作に繋げていく。個人から集団への繋がりを作っていく。 ・図画工作科における多様な表現を体験し、表現指導の幅を広げる。 ・製作過程や作品を写真・ビデオ撮影し、作品・工程を記録する。それを視聴しながらの反省を行う。 ・アイデア等の収集にICTを活用する。									
授業計画 【第1回】	学習指導要領の構造 ・造形的な見方・考え方について ・図画工作科で学ぶ資質・能力について学習指導要領の構造									
授業計画 【第2回】	図画工作科における学び ・図画工作科教育の意義と目標 ・主体的・対話的学びについて									
授業計画 【第3回】	学習指導要領の構造 ・造形的な見方・考え方について ・図画工作科で学ぶ資質・能力について									
授業計画 【第4回】	「造形遊びをする活動」① 造形遊びの中の、こどもの姿に注視し動きの様子をとらえる。									
授業計画 【第5回】	「造形遊びをする活動」② 活動例を基に指導のポイントを探る。 オリジナルの造形遊びを考案し、計画を立てる。それを基に実践してみる。									
授業計画 【第6回】	「絵に表す活動」と子どもの姿 ・描画表現に関する体験、指導のポイント クレヨン、水彩絵の具を使う。									
授業計画 【第7回】	「立体に表す活動」と子どもの姿 ・彫刻に関する体験、指導のポイント 粘土を使い、触覚を大切にすることを確認する。									
授業計画 【第8回】	「工作に表す活動」と子どもの姿 ・工作に関する体験、指導のポイント ・段ボールを使った立体作品を工作する。切断、組み立て、接合の実際を体験する。									
授業計画 【第9回】	「鑑賞の活動活動」と子どもの姿 ・「鑑賞の活動活動」の指導のポイント ・児童の作品や、著名な作家の作品を使つての鑑賞を実践する。									
授業計画 【第10回】	指導計画の作成① ・学習指導案の基本を知る 題材を設定し、指導観、児童観等の構想を練る。 ・授業の流れを掴む。									

授業計画 【第11回】	指導計画の作成② ・意欲を引き出す、授業のポイント、指導の工夫を考える。 ・題材設定を踏まえ、授業子言う想を練る。
授業計画 【第12回】	指導計画の作成③ 伝統や文化に関する教育を取り込んだ図画工作の指導案を試案する。
授業計画 【第13回】	図画工作科における教科書・美術館の利活用 ・図画工作科教育の時代的変遷について学び、今後の展開を考える。 ・学校外の取り組みについて解説し、視野を広げる。
授業計画 【第14回】	造形遊びをする活動について ・低学年～中学年～高学年 ・身近な素材を使って、室内、屋外へと表現活動の広がりをもとめて。
授業計画 【第15回】	図画工作科の目標及び内容について ・世界的・社会的視野での図画工作研究 学びの広がりを促す。
授業の到達目標	・学習指導要領の目標内容を踏まえ、発展的に試行していく。 ・子どもの表現を理解し、発達段階の理解につなげる。 ・図工の基礎実習を通して、表現する楽しさを体感する。 ・図画工作科における多様な表現を体験し、表現の幅を広げる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	授業で使用する、材料、道具の準備を必ず行うこと。 ・えのぐ、クレヨン、紙など ・身近なものをスケッチする（約1時間）
授業時間外学習【復習】	経験したことを実際の生活の中で再現してみるとよい。試行錯誤を繰り返しながら、自分のものとしてほしい。 身近なものをスケッチする（約1時間）
課題に対する フィードバック	造形表現と図画工作との関連の理解を深め要約のレポートを評価する。図画工作教育の方法や小学校指導要領について、必須要点をまとめレポートする。実技実習は到達度レベルを示し評価する。
評価方法・基準	授業中の参加意欲・態度と提出課題で採点する。（配点割合：授業の態度等30%、実習課題30%、レポート課題40%）
テキスト	・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編：文部科学省 日本文教出版発行 110円 『明日の小学校教諭を目指して子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』新野貴則 福岡知子 萌文書林 2750円 学生生協で販売
参考書	『いつしよに考えよう 図工のABC』 日本文教出版 『図工・美術がもっと好きになる 造形のABC』 日本文教出版 『学びとしての図画工作 題材のABC』 日本文教出版 『美術による人間形成』ローウェンフェルド 黎明書房 『芸術による教育』ハーバード・リード フィルムアート社
備考	※実技演習ができる服装が望ましい。（準備内容については、事前に予告する。）